

2021年度活動概要

授業学(関東)研究会

本研究会では、「大学におけるリメディアル英語授業のあり方」をテーマとし、近年の学生の多様化、低学力化の原因を探り、解決法を見つけ、授業改善の方法について研究を行っている。

2021年度は、Zoomにて計8回のミーティングを開催した。また、8月には60周年記念ウィークのJACET Hoursでの発表を行った。9月、11月には公開研究会、1月には中部支部、関西支部の授業学研究会と共催で、第3回授業学研究大会を開催した。

主な活動内容の概略を下記に記す。

(1) 大学英語教員のお悩み相談企画

この数年、多様な学生に対し、大学英語教員が授業を行う場合、言語活動、学習者、授業環境など、直面する問題点をピックアップし、質問項目をまとめていたが、大修館書店『英語教育』2022年4月号(2022年3月発売)より、12回の連載を開始した。原稿の入稿時期に合わせ、2021年12月から原稿検討を行っている。

(2) JACET Hours

オンラインで行われた60周年記念ウィークのJACET Hoursにおいて、ピックアップした質問項目をいくつか取り上げ、対応策について発表を行った。

(3) 授業学研究大会

関東・中部・関西の3支部の授業学研究会共催で第3回授業学研究大会をZoomにて開催した。研究発表・実践報告は4件であった。また、田地野彰先生(名古屋外国語大学教授・京都大学名誉教授)に「システム思考で英語授業をとらえ直すーティーム・ラーニングと「意味順」指導を中心にー」というタイトルでご講演いただいた。全国からの参加者があり、盛況だった。

(4) 公開研究会

2021年度は、9月に小張敬之先生(青山学院大学名誉教授)に「DX/Society 5.0における英語教育の可能性」というタイトルでご講演いただいた。また、11月には板垣信哉先生(宮城教育大学名誉教授・尚絅学院大学特任教授)に「授業におけるテスト・フィードバックの研究ーメタ認知、言語知識、動機の観点からー」というタイトルでご講演いただいた。いずれもZoomでの開催ということもあり、多くの参加者があった。

(5) 今後の計画および研究成果発表方法

(1)で述べた、お悩み相談企画については、大修館書店『英語教育』での連載が始まったので、今後、さらにトピックを増やし、書籍化に向けて準備を進める。公開研究会については、2022年度はZoomで数回実施する。関東・中部・関西3支部合同の「授業学研究大会」は1月にZoomで開催し、英語授業学についてより深く探求する機会を設ける予定である。